

継続は力なり

輸送効率化

安全対策

コロナ禍でも止められない物流。効率化や安全の施策も、継続が企業の力になり信用につながる。

松浦通運

運転手の安全を第一に

新たな対策、次々展開

松浦通運（本社・佐賀

県唐津市、馬渡雅敏社長）

は、ドライバーの安全を第一に考えた対策を講じている。新たな取り組みでは、新型コロナウイルスの感染が広がる中でも、ドライバーが安心して休憩できる環境を整備。新技術を活用した対策も始め、事故の防止につなげている。

ドライブレコーダーの導入、安全大会の開催など、長年ドライバーの安全に注力する同社。従業員の間では「ご安全に」とあいさつし、常に事故防止の気持ちを持つよう心掛けてきた。

従来の取り組みに加え、新たに開始したのが新型コロナウイルス下でも安心して働ける環境整備だ。今年、グループ企業が栃木県に新設した営業所の休



携帯式アルコールチェッカーで、新型コロナウイルスの感染防止に取り組んでいる

憩スペースにベッドを設置。関東方面に向かう長距離ドライバーが密にならずに休憩できるように環境を整えた。

昨年来、新型コロナウイルスの影響でトラックステーションが閉鎖となったり、利用できても密になりやすい施設もあり、「最初はやり過ぎとも考えた。だがドライバーに安心して

AIで運転手の問題を検知

昨年からは、ながら運転・飲酒運転・シートベルトの未着用を三大悪と

位置付け、さらなる対策にも乗り出した。新たに車内映像をAIで解析する車載器を全車に導入。運行管理者がドライバーの問題をすぐ把握するとともに、適切な安全運転指導を行っている。

例えばスマートフォンを見ながら運転していた場合、AIが問題のあるドライバーの行動を検知し、映像とともに運行管理者に通知。違反が確認された際は即座に指導を行い、事故防止につなげている。現在、メーカーとAIの検知精度の向上を図っており、将来的にはグループ企業にも順次導入する方針だ。

馬渡社長は「おおらかだった昔の感覚はもう通用しない。毅（き）然とした対応で、安全と品質を追求したい」とし、今後は新型コロナウイルスの経験を踏まえ、BCP（事業継続計画）の見直しを通じて従業員の安全・安心の確保にも取り組んでいく。

（永井 靖乃）